

研究に関するお知らせ（第1.1版）

<研究の名称>

NCGMにおける院内菌血症に関する研究

2016年8月22日

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 国際感染症センターでは以下にご説明する研究を行うことを計画しています。ご自身の情報データのご使用を拒否される場合には、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ窓口にお申し出ください。お申し出になられても、みなさまが不利益を被ることはございませんのでご安心ください。あなたのご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。また、本研究で収集させていただいたご自身の情報を当院の規定に沿った形でご覧いただくこともできます。ご希望される場合はどうぞ記載のお問い合わせ先に申し出てください。未成年の方の場合には保護者等からの研究不参加、問い合わせ等にも対応いたします。

■ 研究の対象となる方：入院後48時間以降に血液培養検体より菌を検出した方

■ ご協力頂く内容：上記対象となる方の診療情報をカルテで参照させていただくことがございます。皆様に新たにご負担頂くことはございません。

参照させていただく項目の例：年齢、性別、基礎疾患、血液培養から検出された微生物、カテーテルや人工呼吸器装着の有無など

■ 研究の概要

<研究の目的と意義>

血流感染症は死亡率や罹患率の高い重要な原因感染症の一つです。院内血流感染症は入院期間を延長し、市中感染や医療関連感染よりも死亡リスクが高く、また医療費の増加にも関連していると報告されています。全ての院内血流感染症を予防することはできませんが、一部は予防可能なものもあります。本研究の目的は院内菌血症について評価を行い、どの程度院内血流感染症が予防できるかを調査することを目的としております。

<研究の方法>

観察期間は2015年4月から2016年3月までの1年間のデータから、入院48時間以降に生じた血流感染症症例のデータを集計します。そのうち、予防ができる可能性があるものがどの程度あるのかを調査します。

■ お問い合わせ窓口

国立研究開発法人国際医療研究センター病院 国際感染症センター 片浪 雄一

電話：03-3202-1012 e-mail：info-dcc@hosp.ncgm.go.jp